

平成 27 年度 学校評価表

学校教育目標		絵と歌声にみちた、美しい瀬戸田小学校 ～地域に誇れる、地域が誇れる、地域を誇れる学び舎～					
a ミッション		確かな学力の育成と 芸術文化の創造		a ビジョン		①学校体制として一貫した方向性・組織性・計画性の基で運営に努める学校 ②基礎的な学力と学びの意欲を高めていく学校 ③測いと規律の中で基本的な生活習慣を定着させていく学校 ④地域の学習環境や教育力を活用し、保護者や地域とともに歩み、信頼される学校	
尾道市立瀬戸田小学校							

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画				
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	i 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	k 二次評価			l コメント	m 改善案			
					a 達成率	e 達成率			イ	ロ	ハ					
確かな学力の向上	「学びと育ちの連続性」を基盤に確かな学力の定着を図る教育活動の推進	瀬戸田小学習モデル（学びのすすめ）の実践と毎月末評価・改善	○瀬戸田小学習モデルの月末学級評価の全校平均80%以上（担任評価・授業研・授業観察評価）	80%	75%	87%	109%	A	3	3	3	○授業中の児童の姿勢・発表力などについてきている。 ○学校・家庭がひとつになり、目標が達成できるように声かけをしていくことが、達成への近道になると思います。「継続は力なり」のことわざの如く指導していくことが、大切である。	・瀬戸田小学習モデル「学びのすすめ」について全教職員で確認して意識統一するとともに、保護者にも周知する。 ・8項目から6項目に減らし学期ごとに重点目標を決めて指導していく。			
		瀬戸田小学習規律・基礎学力の定着	○国語科・算数科における授業改善と毎月末評価・改善	○国語科・算数科の学期末テストにおいて85点以上の児童の割合80%以上（学期末）	80%	64%	70%	88%						B	○学習規律が児童によく浸透してきている。 ○文章を読み取る力「読解力」を高めるには、読書に親しむ時間を意識して取り入れていくことで、論理的に文章を分析し、解釈する力がつくと思えます。立ち止まって考える時間が、必要だと思えます。 ○反復練習が効果的科目については今後も継続的に実施する必要がある。考える科目については、どこで間違えたのか、何の理解が定まらなかったのかをその程度児童本人に説明させて次のステップに進めていくことができるような取組ができればいいと思えます。	・計画ミスがないように集中して授業に取り組み始める学級づくりをしていく。 ・見直しややり直し（確かめの方法・やり直しをするなど）を指導していく。 ・家庭学習に計算問題だけでなく文章問題の課題も出したり、復習問題も編り交わたりしていくようにする。
		芸術教育の推進と創造	○図画工作科におけるポートフォリオ評価の実施	○児童が行う自己評価及び担任評価における肯定的評価の割合80%以上	80%	95%	94%	118%						A	○図画工作科に於けるポートフォリオ評価が本物になってきているように思う。 ○自己肯定感を持つことにより、自分に自信が付き、意欲も高まり、目標に向けてさらに頑張るでしょう。教師は児童の活動をしっかりと把握し、自己肯定感につながるような意図を常に意識してみつめることに専念していただきたい。	・ポートフォリオについての研修を行い内容を精選して開発していく。 ・肯定的評価をしながら授業を進めていく。
豊かな心の育成	お互いを尊重し、自ら考えて進んで行動ができる子どもに育てる生徒指導体制の確立	生活規律の定着	○生活習慣4項目（時刻時間・挨拶返事・無言清掃・聴く聞く）の重点週間取組と毎月始評価	80%	38%	75%	94%	B	3	3	3	○各家庭での教育も重要な要素であるので、その辺り何らかい事の取組を全学年が徹底し、どの教職員も十分に指導することで習慣化を図る。 ○生活習慣4項目「朝顔」「挨拶」「掃除」「聞く」を重点的に身につけることができれば素晴らしいと思う。	・しゃべりたりやり直し、私語がなくなるまで話さない等の取組を全学年が徹底し、どの教職員も十分に指導することで習慣化を図る。 ・重点生活習慣や生徒指導規程について、なぜ必要なのか、意義をきちんと理解させ、自主的な行動を促す。 ・朝会や教室移動の予定などを明確にし、児童に見通しを持たせて、自発的に行動できる支援をする。			
		生徒指導体制の充実と推進	○いじめ・不登校の早期把握・迅速対応・具体指導・記録の実施	○生徒指導体制としての毎月末評価・いじめアンケート年間2回実施(6月・10月)(アセス)	100%	100%	100%	100%						A	○学年毎の個別指導ファイルに際して、早期対応、「報告・連絡・相談」の指導体制に努めていく。 ○児童の随時行動や他者の児童の課題に対して、教職員が工夫して早期発見・早期指導が大切にされている。指導体制が適切である。 ○%の会議での不登校に関する学校側の説明は、非常に重要な説明であったように思う。特定のこともに係る説明を求めている訳ではないので、しっかりと説明情報を共有する必要があったと思えます。 ●個別指導のある児童に対する支援については、配慮をしていく必要がある。	・取組の進捗管理や、管理職への報告について、学年主任が自ら行う。 ・月一回の生徒指導委員会、指導のある児童に関する課題を徹底し、「進」が「いつ」「どのよう」に進展しているかを把握し、必要に応じて対応策を立案する。 ・スクールカウンセラーやSSWを活用し、課題のある児童について、保護者と学校、指導員等の連携を密にし、具体的な対応策を作成することで改善を図る必要がある。
健やかな体の育成	心身の健康や、体力の向上を図る教育活動の推進	体力づくりの推進	○新体力テストに見られる課題に対する取組の推進	○記録が向上した児童の割合80%以上	80%	79%	99%	B	3	3	3	○学年により、達成値に差が広がります。教職員の指導力により結果が表れることは、残念です。指導力の向上を期待します。 ○部活の児童には、補助力（投）と柔軟性が不足している。外で遊ぶ時間の確保が重要だと思う。	・重点体力課題を職員がより強く共通認識し、今後の取組を進める。 ・体育科授業の質的向上に向け、教員が、情報交換ができる方を考え、実施する。 ・取引に自然に体力向上を促せるような環境づくりをする。 ・児童自身が重点体力向上に向けて主体的に取り組めるように、意識付けをしたり、環境づくりを進めたい。			
		基本的な生活習慣の定着	○早寝・早起きの定着に向けた取組。	○ノーテレビデーで目標を達成した児童の割合80%以上。	80%	70%	77%	96%						B	○早寝・早起きは、家庭での取り組みと協力が不可欠であり全てである。したがって、保護者より「すこやか」による情報発信は推進していく必要がある。併せて、保護者が知る機会に直接話を取る取組を、やり、理解と実践を促していく。早寝ができていない要因を把握する。早寝ができていない要因を把握する。 ・早寝ができていない要因となっていることに対して効果的な指導をしていく。 例：要因：スマホゲームやラインに熱中して、寝るが遅くなっている。 指導：情報モラル教育をすすみ、児童が睡眠に気付き、自ら対応している力を養う。	
信頼される学校づくり	安心・安全な学校づくりの推進	不祥事〇の取組	○服務研修・不祥事防止委員会の計画的実施	○月1回以上実施と不祥事発生数〇	100%	100%	100%	100%	A	3	3	○「なんでも言える教室」「なんでも相談できる職員室」の風土を創ります。 ○先生の発言に関して、こどもたちの信頼関係を築くような言動は現在に備え、こどもたちが納得できる発言と行動により、しっかりとした信頼関係を築くことが大切であると思えます。結果、こどもたちはしっかりと先生の方を向き、相違点で学力や行動態度も向上すると思っています。よりよろしくお願ひします。 ○不祥事防止委員会の活動が発表するほど発生を抑制する確率は高まると想うので、この活動を大切にしたい。	・今後も不祥事防止委員会の計画実施を進め、不祥事〇を継続する。 ・服務研修を月行事に組み入れ、毎月終金曜日には確実に行う。研修の担当を各分室に割り分けて、研修内容を工夫することで、不祥事防止の観点から捉えることができるようになる。 ・教師どうしのコミュニケーションを密にし、仕事上の悩みなどを互いに話し合える職員室の雰囲気づくりに努める。			
		積極的情報発信・連携	○児童アンケート・保護者アンケートの実施	○アンケートの学期1回実施(6月、11月)	100%	50%	100%	100%	A					○アンケートに書けない児童や書きづらい児童のことをふまえて日々から、アンケートをしっかりと進めて対応していきたい。 ○集団生活の中ではいじめが発生しやすいので、教師の見張くセンターが早期発見につながると思う。 ○保護者・児童対象の、いじめのアンケートを11月に実施した。提出されたものを速やかに開封し、担任が保護者連携や児童との面談を早期に行い課題の解決に向け取り組んだ。 ●アンケートの内容だけでは、児童の実態を十分把握できていないといえない。	・教師が、いじめ絶対許されないことだという認識を常にもち、児童の様子をしっかりと見ていく。少しでも気づいた場合は、学年や教職員で連携し、早期に取組を行うようにする。 ・児童とのコミュニケーションを積極的に行い、児童が教師に相談しやすい雰囲気をつくるようにする。困ったことがあれば、だれに相談すればよいかを知らせておくことも必要である。	
		積極的情報発信・連携	○学校・学年通信とホームページによる情報発信・広報	○学校・学年通信、月1回以上配布とホームページ毎月1回更新	100%	69%	87%	87%	B					○学校・学年通信は、月1回配布することができた。 ○ホームページは、11月以外更新ができていない。 ●ホームページの更新を全ての教職員ができるような体制ができていない。	・毎月末をホームページ更新の日と位置付け、月1回「開かれた学校」になりつづけることと連動して「開かれた学校づくり」に努める。 ○学校のホームページは、できるだけ1回分のペースで更新することを目指す。 ・「教職便り」のページを新設し、さらに具体的に学校の様子が伝わるようにする。	

【自己評価 評価】
 A : 100 ≧ (目標達成) B : 80 ≧ (ほぼ達成) < 100 C : 60 ≧ (もう少し) < 80 D : (できていない) < 60

【外部評価】 イ : 自己評価は適正である。ロ : 自己評価は適正でない。ハ : わからない。